

日本音楽学会第 68 回全国大会 2017 年 10 月 29 日 (日)

於：京都教育大学藤森キャンパス

## 発表要旨

大正～昭和前期 五線紙による作曲年代判定の可能性

——信時潔文庫整理を終えて

信時裕子 (東日本支部)

2017 年 3 月、東京藝術大学附属図書館所蔵信時潔文庫の整理が完了し、「信時潔文庫貴重楽譜データベース」および寄贈された蔵書の目録を WEB 上で公開する目途が立った。

(科研費 25284025 による)

信時の自筆譜は作曲年月日の記載がないものが多い。演奏や出版などの発表年ほか、複数の要素から年代を割り出していく必要に迫られる中で、五線紙による年代の判定ができないものかと考えた。これまでに、山田耕筰、平尾貴四男、大澤壽人、林光らの作品資料目録や、手稿譜の研究において、五線紙の種類記録があった。その記録方法に倣い、一部を改変して、使用五線紙を記録した。

五線紙を区別する手がかりは、製作販売会社、五線紙を提供あるいは利用する組織や個人の名前と、紙面に刻印された「商標」一トンボ、鳩、楽器、文字を組み合わせた特徴的なトレードマークなどである。さらに段数、サイズ、用途などにより多彩なラインナップとなる。信時文庫の場合、3,800 余りの作品資料情報を作成する過程で、200 件のデータを持つ「信時文庫・五線紙データベース」が出来上がった。これらの情報は、時には複数の資料の関係を暗示し、また作曲年代の推定に役立った。

公開予定の「信時潔文庫貴重楽譜データベース」は、公開システムの機能上、その「五線紙データベース」と作品資料情報を関連付けた、いわゆるリレーショナルデータベースとすることができなかったが、五線紙に関するキーワードや五線紙 ID で検索することができ、一部は資料の画像も確認できる。

本発表では、最も多く使用され、名称と所在地の変遷が多い「共益商社」関係ほか各種五線紙を、「商標」などの画像とともに紹介し、その使用事例から作曲年代判定の可能性を探る。一人の作曲家が使った五線紙は種類も限られ、偏りもある。今後さらに、ほかの作曲家の事例が明らかになれば、五線紙の使用年代の絞り込みが可能になるだろう。